

言葉の仲間分けをしよう

【内容】ロイロノートのカードを使って、言葉を分類する。

【使用アプリ】ロイロノート

【事例紹介】

第2学年の国語科「ようすをあらわすことば」の学習で、ロイロノートを活用した事例です。

始めにイラストと文章を見せ、イラストに合う文章になるように、括弧に当てはまる言葉を考えました。多くの言葉を挙げられるようにするため、児童が発表した言葉のカードへの入力は、教師がしました。

次に、カードに入力した言葉を仲間分けすることはできないかを問い、Yチャートを使って3つに分類しました。Yチャートを児童に示しておいたことで、出てきた言葉は3つに分類できそうだという見通しを持って活動に取り組むことができました。

最後に、様子を表す言葉は、どれくらいかを表す言葉、響きを表す言葉、例える言葉の3つに分類できることを押さえました。ロイロノートを活用することで、短冊を使用して黒板上で言葉を分類するよりも、簡単に言葉を分類することができました。

【終わりに】

低学年におけるChromebookの活用では、タイピングにもまだまだ慣れていないことから、文字入力の面で課題も多いのではないかと思います。実態に応じて、活動に文字入力を取り入れていくことも考えられますが、教師側のChromebook活用だけでも、授業準備の負担軽減や手軽な意見共有につながると考えられます。様々な場面で、Chromebookを無理なく活用できるように、今後も工夫していきたいと思えます。

☆教育委員会主幹講師☆ 「Chromebookを無理なく活用できるように」という言葉がありました。とても大切なことだと感じています。ICTに関する議論の中で「ICTを使うことは、目的ではなく手段である」という言葉をよく聞きます。本時の学習目標を達成するためにICTを使うのであって、ICTを使うことが目的では、何か違和感のようなものがあり、スムーズに流れない授業展開になってしまい、授業がうまくいかないことが多いものです。本時の目標が決まった後、本時の目標を達成するために教材について考え、教材が決まればどのような手立てでしょうか、どのような板書をしようか、どのような教具を使おうかと考えていきます。その中で「これをICTですれば便利な」「ICTを使えば子どもたちに分かりやすいかな」といったときに使うのが効果的な活用になると考えます。何がなんでも無理して使うという考え方ではなく、子どもたちの良い学びのために今後もChromebookを効果的に活用してもらいたいと思えます。

また、先日行われた「ICT活用推進リーダー養成講座」では、講師の先生から、思考力育成のための思考ツールの使い方についても講演の中で触れていただきました。講演内容を参考に、思考ツールの有効活用についてこれからも研究し、ご報告ください。

